

玉成幼稚園參觀の記

氏 原 銀

三八

玉成幼稚園は、ソフヤ、アラベル、アルウキン先生の經營せらるる幼稚園で、東京市外高井戸町にありて、保姆養成所を併置す。其敷地廣く其建物質素堅實に其築材の精選なる其構造の入念なる其建築に七萬餘圓を費やされたるものにて、園舎のしつかりとして立派なるは他に於て多く見ざる處なり。

其廣き遊戯室を兼ねたる保育室の周圍に廣き廊下ありて之れに硝子障子を廻らし、其前庭は廣き芝生中に花壇や大小の樹木あり、表側は二階建て階下は應接室保育室にして、階上は保姆養成所の教室となる。遊戯室の後側は先生の居室にして、中

に日本室の一を設けられ最も優佳の裝置になる。之れ先生の如何に日本趣味を有せらるる事の之れのみ止まらず。幼兒保育の上に又保姆養成所の方針の上に付き、我國風に適應せんとして日夜考慮せらるる事の淺からざるものあり、全園各室内の光線のよく透明なる誠に氣持よき感あり。

本園創立以來滿十五年を経最初は東京市内にありしも昭和二年此地に新築せられて移られたるものなり、アルウイン先生は幼時より勉學の念深く殊に幼兒教育に付ては、其實際と理論の研究に伊太利のモンテッソー先生の學校に學ばれ、之れを我國の幼兒教育上に適せざるものは省きて選擇

し實施せらるる者にて、又フレートベル氏の恩物をも使用せらる。茲にアルウィン先生のモンテツツリ先生式の保育を參觀するを得たれば左に記する。幼兒の、感覺練習保育にて、其幼兒の使用する感覺練習用玩具の種類も多からんも私の觀たる物は、視覺に關するもの、聽覺に關するもの、觸覺に關するもの手先の練習に關するもの等に、之れ等の用具は各幼兒の同一の物を使用せず、或兒は聽覺の練習用具を或兒は聽覺の練習用具を使用して倦む色なく、最も靜かに練習す、其一を使用して終れば他の用具を保育者の手によらずして、幼兒自ら棚より欲する用具を取り來て自己の机上に置きて使用す。例へば、聽覺に關する練習用具を使用し終れば之れを棚の上に正しく治めて、自分の使用せんとする視覺用具を取りて使用するものなり。斯く保育者にことわる事なく、自由に我好む物を選びて使用する。

此感覺練習には専ら幼兒の注意力を集中するものなるにより、室内は極めて靜肅を要し保育者幼兒間又幼兒相互間の言語も極低聲に殆んど無言の状態にて、其注意作用を妨げず亂さざる様になされたり、依て參觀人は許されざる事なれど、特別の厚意を以て私共姉妹は之れを許るされたる事は實に幸なりし。

其幼兒の感覺練習の狀況の概要を左に陳ぶ。

觸覺練習 板の圓形方形長方形等を、一の薄き箱の中に其形をはめ込むに、盲想作用即ち手拭にて目かくしをして、手先きで、板の形狀を觸覺してはめ込むものなり。

視覺練習 三原色三間色の糸卷様の物を、其濃き色よりだんだんと淡き色を順次に机上に排列するものにて終りに近付く三四番目の色の區別即ちうすき色に至りては稍注意を深からしむるもの如し。又視覺練習として、形狀の比較に方圓三角

形（直角正三角形不等邊三角）五角六角等の形狀を厚紙に印刷したる物を排べ此原圖に對し其下方に其輪廓を太き線にて印せしものより漸次に細き線に至る圖を排べしめて對照するもの。

聽覺練習には、約三寸程の木製の圓柱を振り動かしカラカラと音をなす物を數個を與へて、之れを振りて其音の大小強弱又は音なき物を分類して、之れを順次に排列し音をききわけけるもの。

手先即ち指の練習には、約一尺程のわくに布をはり其中央をあげ其兩方より約一寸巾の赤きリボン十二個連ねてつけ此リボンを以て結び方の練習をなすもので此六組のリボンを蝶結びに或は解き或は結びて練習をなすもの。又之れと同様のものでわくの中央に一方ボタン一方穴を連ねたるものを以てボタンのかけはずしをなして指頭の練習に又わくの中央双方交互にボタンを付け之れに紐をかけ連ね或ははづして練習をなす。

以上此練習の幼兒に對しては其注意力の優劣如何に付て採點記入して置かれたり、此時間終り後アルウキン先生の言はるるに此感覺練習には、フレトベル式恩物にてはドーシテモ出來難くしてモンテツソリー式によるものなりと。

右の如くモンテツソリー式恩物による保育は豫て聞き居りしも之れを實視するは初めてにて大に感ずる處あり、之れは讀者諸氏の中には既に御存じの方あらんも以上參觀の狀況を記す。

抑幼兒に感覺練習と言ふ事は必要の保育事項で又幼兒は之れの成績に對して一種の興味を有するものなれど、玉成幼稚園の如きモンテツソリー式器具なければ之れを行ふ事不可能なれど、昔時在職中極不完全な之に類似の保育をなせし事の一二を陳べんに、大きな入れ物の中に方形長方形三角形等の木片や石貝又はゴム製毬ゴム製動物其他の物を入れ之れを幼兒に手拭で目かくしするか目を

閉ぢさして其物品を取らしめ、之れを觸覺させて其物名を言ひ當て、又一幼兒を目かくして他の幼兒の交るがはる其幼兒のそばに行きて、其名を呼び其聲をききて誰なるかを聞きしり當て、當てられし幼兒が代りて目かくし兒となる遊をなせし。此遊びには歌を用ゐてなす事もあり、今其遊戯唱歌の譜を（此の唱歌は今より五十餘年前に獨逸に於て使用せる盲想遊戯の唱歌を譯して當時のお茶の水幼稚園保母豊田英雄先生が作歌せられて宮内省式部寮の五等伶人興行葉氏の撰譜せられしものなり）今日使用の西洋音譜にて記るしましたから何卒樂器で御弾きなさいまして其如何なるものなるかを御試みありたし。

唱歌盲想遊戯用

うたまひに たちつとひたる たはむれの
めしびのきみよ ともとちの うたふまに
まに そかなかの ひとりがこゑを みみと

くも それとききしり こころあての その
あなたがへす ささはさきなん

盲想 二 調

6	6	5	3	2	3	3	5	5	6	5	5
ウ	タ	マ	ヒ	ニ	タ	チ	ツ	ド	ヒ	タ	ル
3	3	5	5	6	6	6	7	7	6	5	3
タ	ハ	ム	レ	ノ	メ	シ	ヒ	ノ	キ	ミ	ヨ
3	3	1	1	2	i	2	2	2	6	5	5
ト	モ	ト	チ	ソ	ウ	タ	フ	フ	マ	ニ	ニ
3	3	5	3	2	6	7	7	7	6	6	5
ソ	ガ	ナ	カ	ソ	ヒ	ト	リ	ガ	コ	エ	ラ
1	1	1	1	2	2	i	i	i	2	7	7
ミ	ミ	ト	ク	モ	ソ	レ	ト	ト	2	キ	リ
6	5	7	7	6	6	5	5	5	6	5	5
コ	コ	ロ	ロ	ア	テ	ノ	ノ	ナ	6	5	ズ
3	5	5	5	6	5	3	2	1	タ	2	一
サ	サ	バ	バ	サ	サ	一	ナ	一	ン	一	一